

◆改憲の動きとその裏で着々と進む安倍軍拡

2015年9月の安保法案の強行採決による成立から3年が過ぎた。安倍は今年9月の3選の後も、改憲を煽る発言を繰り返している。

安倍の言う「9条の1項2項維持、自衛隊の存在明記の9条加憲案」の情念的な説明に、国民が騙されないか（例えば、『自衛隊はよくやっている。憲法に自衛隊と書くことぐらい、いいんじゃない？ 安倍さんも何も変わらないと言っている。』）を危惧するのである。

今の自民党9条改憲案には、2015年の安保法制審議時に大問題となった「集团的自衛権の限定的容認の根拠となる存立危機事態」（武力行使の新3要件）は反映されていない。つまり、自衛隊の任務の範囲が曖昧なままの自民党案では無制限の自衛権行使もあり得るのである。これでは、国民投票に持ち込み国民を欺き、あわよくば“フルスペック”の集团的自衛権容認を狙っているのではないかと思えるのである。だとすれば、何と卑怯なことか！ 自民党の九条加憲案「9条の2」は、現行憲法の「9条の1（1項；戦争放棄、2項；戦力不保持）」を、「後法優先の原則」からも有名無実化するのである。そもそも存立危機事態はその定義や認定方法が極めて曖昧なものであることと、2015年のような議論の再燃を避けたいというのが今の自民党の本音ではないか。

安倍政権になって、防衛予算が年々増大し、今や5兆3千億円を窺うレベルにあり、複数年度で支払う兵器ローン（後年度負担）残高も積み上がるばかりである。更には、FMS（対外有償軍事援助）で、イージス・アショアや攻撃型兵器などの高額兵器を米国の言い値で買い、日米軍事活動の一体化が加速している。自衛隊の文民統制の弱体化・組織再編、統合幕僚長の権限強化（現職の3回目の定年延長）やその他にも隠密裏に進められていることが多すぎる。国会での議論も無く着々と普通に戦争の出来る国へと実質的改憲が進んでいる。安倍政権の実績作りに、自衛隊員が利用されてはならない。改憲の発議があらうとなかろうと、国民はアベ政治の数々の欺瞞を究明し、この政権を早く終わらせることに力を結集しよう。でないと、日本が世界から信用されない国になってしまう。



（西宮市 A.K）

安倍「加憲」案にどう対抗するか

池田香代子・伊勢崎賢治・松竹伸幸・
吉田維一さんらによるシンポジウム

日時：11月23日（金）14時～16時30分
開場 13時30分

会場：あすてっぷ神戸（JR神戸駅徒歩5分）

主催：兵庫県弁護士九条の会

参加費：1000円

☆芦屋「九条の会」憲法講演会

『危ない！自衛隊9条明記』

～元自衛官が訴える～

12月1日（土）14時～ 上宮川文化センター
詳細は同封の案内チラシをご覧ください

☆芦屋「九条の会」映画上映会の予告

『沖縄スパイ戦史』

（監督：三上智恵、大矢英代）

日時：2019年3月30日（土）

三上監督のトークあり

詳細は後日ご案内します。ご期待ください。